

Small CoRE Project 活動報告書

プロジェクト名 小児病棟入院親子のための遠隔音楽療法プロジェクト

代表：茶原 雅史（鳥取大学大学院医学系研究科 臨床心理学専攻 修士2年）

プロジェクトの 実施報告	<p>現在、Covid-19の出現によって、小児科病棟においては面会制限や外出の制限、レクリエーションの中止といった活動の制限が余儀なくされている。これによって、入院児が他者と関わったり、余暇を楽しんだりする機会が減少していると考えられ、これは入院生活のストレスマネジメントの難しさにもつながっていることが予想される。</p> <p>本プロジェクトでは、入院児が他者と関わり楽しむ機会の提供を目的に、遠隔アプリZoomを用いて大学と小児病棟を繋ぎ、入院親子を対象とした遠隔音楽療法を行った。実施にあたり、A病院小児病棟の看護師長、保育士、広報・企画戦略センター職員の協力を得た。</p> <p>参加者は、看護師長が実施可能と判断された親子に宣伝し、希望があった親子を対象とした。2月までに、6歳未満の入院児5名に対して個別で実施された。また個々に合わせた活動を行うにあたり、看護師長や保育士に対して事前アンケートを実施し、参加する子どもの好きな遊び、好きな音楽、どの程度身体動作が可能であるかなどの情報収集を行った。遠隔音楽療法の時間は30分から60分で、内容は、手遊び、身体遊び、パペット遊び、楽器遊びなどであった。楽器及びタブレットは、貸出を行った。</p>
経過および具体的な成果	<p>遠隔音楽療法に参加した入院児は、最初は緊張している様子であったが、徐々に活動に参加し、スタッフに自ら働きかける様子も見られた。活動では、楽器に興味を示し自ら鳴らして楽しんだり、パペットを自ら働きかけたり、病室に持ち込んでいるおもちゃを披露するなど、子どもによって様々なやり方で楽しむ様子が見られた。</p> <p>第1回では、通信状況の乱れから途中で活動が中断したり、活動量を臨機応変に調整できなかったことが課題点となり、第2回以降はタブレットを通信状況のよい場所に固定し、活動時間も短めにした上で、できる限り子どもに合わせた時間配分を心掛けた。</p> <p>また、保育士による補助が活動の進行において不可欠であり、途中からは保育士からも情報共有しながら活動の進行やプログラムを決定するようにした。さらに、身体活動を実施する際により広い部屋が望ましいと考えられたため、可能であれば病室ではなくデイルーム等の部屋に移動して実施することを検討した。小児病棟において遠隔音楽療法を実施する場合は、以上のような対応の工夫や連携が必要であったと考えられる。看護師や保育士との連携や活動に関する連絡、意見交換、実施環境の設定等は広報・企画戦略センターの職員の方にご協力いただいた。</p> <p>遠隔音楽療法の実施後には参加した子どもの保護者と保育士に事後アンケートを実施した。保護者からは、「久々に病院外の方と交流できて楽しそうで</p>

	<p>した。」「子どもの楽しそうな姿を見られて嬉しかった。」「入院生活において、とても気分転換になりました。」「楽器を使って大きな音を出すという行為がストレス発散になるのかなと思いました。』といった感想をいただき、遠隔音楽療法が入院中の子どもに対して、余暇や気分転換の時間、ストレスを発散させる機会を提供できたことが伺えた。</p> <p>保育士の方からは、「音楽遊びを数人で一緒に楽しんでくださる方、リードしてくださる方がおられると、いつもとは違った刺激があっという間と感じました。」「回数を重ねれば、もっと新たな面やできることもふえていくんじゃないかなと想像が膨らみました。」「(保護者が)先生に教えてもらいながら何かを一緒にするという姿をなかなか見る機会がないので、良かったなと思います。』といったご意見をいただき、遠隔音楽療法が入院環境では機会のない体験を提供できたことが伺われた。</p> <p>一方で、「思ったより緊張していて、慣れるまでに時間がかかってしまった。(保護者)」「画面を通してというのが、少し大変そうでした(保育士)」といったご意見・ご感想もあり、普段とは異なる遠隔でのコミュニケーションの難しさといった課題点を挙げられた。</p> <p>本プロジェクトを通して、少ない人数ではあるが、入院児とその保護者に対して余暇や気分転換、普段できない体験を提供することができたと考えられる。こうした体験は、子どもや保護者のストレスマネジメントにも繋がり得ると予想される。また実施において、場所の確保や環境的な配慮、患者さんへの説明等は、看護師長や保育士、広報・企画戦略センター職員のご協力が不可欠であった。病院スタッフの皆様との連携を通して、入院児のニーズ、遠隔音楽療法が貢献できること、子どもに合わせた活動を提供するための配慮など多くのことを学ばせていただき大変貴重な体験をすることができたと考えている。</p> <p>今後も、本プロジェクトで経験し学んだことを多くの支援に活かしていればと考えている。</p>
謝辞	<p>本プロジェクトは、A 病院小児総合病棟との連携によって実施されました。遠隔音楽療法は、場所の確保や活動の補助、ミーティング、患者様へのご説明等のご協力がなければ成し得なかったと思っております。快くご協力をしてくださった病院職員の皆様に心より感謝申し上げます。</p>